

2010年8月5日

／ 閃きもパルスも飛ばず俳句の日 ／

／ 俳句の日だって一句もものにせず ／

…季語も傍題もないみたいですが、実は、俳句の日がそれ。カレンダーの数字の並びに拘って意味づけし、何とかの日というのが、やたらとあるのは滑稽です。

でも、実は、中学・高校生に俳句を広めたい、と甘納豆や河馬の句で名を轟かせている坪内稔典さんが提唱なさって、8月19日を俳句の日と“制定”。

その日にあやかっの掲句。二句目はつぶやき風。しかし、まさにあげくの果てのお笑い草ですね。

／ きりきりと鳶は炎暑を突き抜ける ／

…暑いですねえ、まったく。ジェット気流が大蛇行しているせいとか。

昔は、その気流に気球爆弾を運ばせてアメリカ本土を空襲しようとした真面目な作戦もありました。思えば、真面目すぎて、風任せな滑稽な作戦でしたねえ。その後、風船おじさんなんていう方もいらっしゃいましたが、壮図空しく行方不明……。

でも、鳶は、高空で涼しかなあ。

／ 暮夜ひそか月下美人に会いに行く ／

…暮夜ひそかにとは、たまには使うでしょう。でも、この花をご存じの方には、つまらない句ですねえ。シャレにもならないまとめ方をして、それ自体が滑稽ではあります。

／ 本降りになって駆け出す雨宿り ／

…これはよく知られた江戸川柳。

／ 片陰が尽きて覚悟の車椅子 ／

…電動車椅子は時速六キロに設定されてます。もがいても叩いてもスピードは定速ですからから、日盛りのアスファルト道路では焦熱地獄です。同情と微笑にみまもられています。

ところで、稔典さんに尊敬の思いをこめて、彼の一句を賞味しましょう。

／ たんぽぽのぽぽのあたりが火事ですよ ／ ～ 稔典

…この句には淫靡な解釈がつきまとっているとか

…つまり、／ぽぽのあたり／にそれを感じる人もいるようですね。 前回の爽波さんのと次元が違いますが、どちらも羨ましいくらい、あっけらかんと詠んでます。

これくらい意味をボカシながら滑稽な句がうみだせるとは…

ああ！！